

UDLM

江戸時代から栄えた宿場町、今何が変わり何が残っているのか。
街を実際に歩いて探ってみました。

7

vol.335

July 31st
2023

宿場町の今

- p.2 旧宿場町のまちづくり
- p.3-4 旧宿場町を歩いてみると ...
- p.5 地域のプレイヤーの声を聞いてみると ...
- p.6 草加駅東口 旧街道エリアをおさんぽする。

△旧草加宿の街歩きの様子

旧宿場町のまちづくり

旧宿場町の現在の姿は都市ごとに異なっており、奈良井宿のように古い建物が数多く残っているところあれば、都心近くの立地条件の良さから開発が進みマンションが立ち並んでいるところもある。実際、埼玉県にある筆者の地元近くの旧草加宿では、街を歩いてみるといくつか文化財に登録されている建築物を見つけることができるが、歴史的な街並みの保全が現在のまちづ

くりの主要なテーマといえるほど盛んではないように思える。旧宿場町のまちづくりには地域ごとに様々な特色があるのだろう。

今月号では旧宿場町での現在のまちづくりを考察する機会として、旧草加宿を対象に街歩きを行い、街道沿いの建物や街並みの観察や地元の方々との交流を通して、今後のまちづくりの可能性を考えていきたい。

旧草加宿近辺の歴史

旧宿場町の事例として、千住宿に次ぐ日光街道の第二の宿駅として栄えた草加宿を取り上げるにあたり、周辺を含めたエリアの歴史を把握しよう。

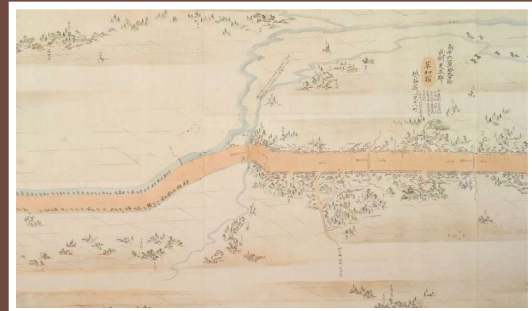
1689 年 | 『奥の細道』に記録



1689年に松尾芭蕉は門人の河合曾良を伴って江戸深川を旅立ち、奥州に向けて歩み始める。『もし生きて帰らばと、定めなき頼みの末をかけ、その日やうやう早加（草加）といふ宿にたどり着きにけり』という文章には旅の出発の時の不安な心情とともに、この草加宿にたどり着いたことが読み取れる。

1600

1630 年 | 草加宿の成立



初期の日光街道の千住と越谷の間は沼地が多く、大きく東に迂回して通る必要があったが、大川図書という人物が茅野を開いて沼を埋め立てて新道をつ造った。この沼地の造成に多くの草が使用されたことから「草加」と呼ばれ、幕府に命じられた1630年に周辺の9か村の組合宿として草加宿が誕生した。

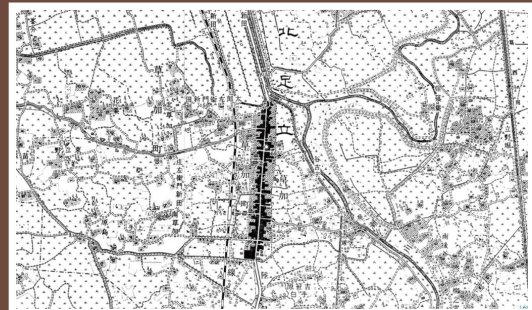
1962 年 | 草加松原団地入居開始



都心への通勤が便利になるにつれて草加市の東京のベッドタウンとしての側面が強くなっていき、約6千戸の大規模団地である草加松原団地の建設はまさにそれを表している。次第に旧街道沿いにはシャッターが閉まったままの店舗も増え、バブル期には旧街道沿いにも分譲マンションが多く建設される。

1900

1899 年 | 草加駅の設置



東武鉄道が千住-久喜間で開通して草加駅が誕生する。鉄道による交通機関の発達により草加宿の宿駅機能は衰退し、旅籠が激減する。草加駅は草加宿の近くに設置され、市役所も近辺にあり草加市の中心機能を持っており、宿場町の人々の行き交う空間としての役割が時代を経ても引き継がれている。

2000

2016 年 | リノベーションまちづくり事業開始



東京のベッドタウンとして栄えてきた草加市は職場も買い物も遊ぶ場所も全て市外という住民が多く、「寝に帰るだけのまち」になってしまった。それに伴い生じている、コミュニティや都市型産業の不足などの課題解決の方策として、旧街道沿道エリアをモデル地としてリノベーションまちづくりを開始した。

2014 年 | 草加松原が国指定の名勝に



旧街道沿いの住宅開発が進み、古い町並みが失われていく一方で、かつて千本松原と呼ばれた草加松原の松並木の保存・植樹活動が1970年代から始まり、一時は60本程に減少した松は600本程に回復し、2014年に『おくのほそ道』の時代の雰囲気を与える風致景観として評価されて国の名勝に指定された。

旧草加宿を歩いてみると ...

数人のマガジン編集部員*で実際に旧草加宿の街歩きを行った。7/7と7/14の2日程にわたり実施し、近年のこの旧草加宿でのリノベーションによるまちづくりの取り組みを把握した上でその対象物件を中心に回りつつ、現地での街並みや地域住民の活動を観察し実状を調査した。
街歩きの中で店主の方々や地域の方々と交流を大事にしながら、この地域の人同士や店同士のつながりを感じ取り、まちづくりの良い点や悪い点を探り、今後の旧宿場町のまちづくりの在り方を考察したい。
p.3-4では街歩きを行ったルートやその様子を地図に表現し、p.5では現地でのヒアリング内容や学生間の議論をまとめている。

*参加者：7/7 佐橋・高野・橘・小林・山田

7/14 佐橋・永井・長谷川・音山・小林・水野

0 50 100m



#草加宿 今様本陣

一階の飲食店が閉店してしまったのは立地条件も関係あるのかな？

7/7 ルート

7/14 ルート

p.6掲載店舗



#堀井商店 草加せんべい

せんべいの看板が突然出てきてびっくりした！



#旧街道

一方通行になっていて歩道がかなり広いね！子どもも安心して歩けそう！

旧日光街道



#おーぐばん

旧宿場町らしい建物だ！混んでいて中に入れないのが悔しい...



#おせん茶屋

日影になっていてちょうどいいオープンスペースだ！



#シリアイベンチ

このデザインのベンチさつきも見え気がする...

2



ecoma coffee

看板のメニューのキャットストリートフレンドは渋谷に関係あるのかな？



#ホルモン虎門&まなべや

焼肉屋と学習塾の組み合わせはどうやって生まれたのかな？



#野菜とお酒のバル スバル

通りに面していない壁面にもおしゃれなデザインがある！！

1

県道49号

3

蔵の内部だけでなくアプローチにもこだわりが見られるね！



#蔵カフェ 中屋

駅前にはデパートがあった
て栄えていた印象だ！

草加駅

出発地点

草加駅

細長い敷地をうまく活用しているね～

藤城家住宅店舗

旧宿場町の歴史を感じさせる建物も
いくつか残っているね

県道327号

6

PAKANの看板のデザインが斬新だ！
吊るされているヤカンに子どもが頭をぶつけな
いか心配だね

SOSOPARK

PAKAN

PAKAN

Coworking space Torino's

旧日光街道

県道49号

建物をよく見ると、リノベーション前の
面影が感じられる気がする

T字の電球の並び面白いね！
おしゃれなワーキングスペースがこの建
物にあったのは意外だった！

そうか食堂

まさにリノベーションって感じのおしゃれな
カフェだ！
この看板のデザインどこかで見た気がする、

Pick Up! 街道沿いアート



cafe gallery CONVERSION/edaha

Cafe

cafe gallery CONVERSION

街歩きの中で旧街道沿いによく見られたこの特徴的なベンチはシライベンチと呼ばれるもの。これは2018年頃から旧街道沿いを中心として置かれているもので、「ピタッと尻に合い、知り合うベンチ」という意味を込めて名付けられている。真ん中が少しへこんだ作りになっていて座りやすく、街歩きメンバーも思わず座ってしまった場面があった。ベンチの下部にはイラストのようなものが貼られていたり板に直接描かれていたりしているのが印象的だった。このベンチにはミチクサアートという役割もあり、旧街道沿いの一本道を長い画廊と見立てて、ベンチにアート作品を展示することで、道行く人がお店の前にたたずむ光景を生み出してお店と道とのつながりを図り街の豊かさを表現するという意味合いもあるようだ。

地域のプレイヤーの声を聞いてみると ...

今回の街歩きでは訪問したリノベーション物件のお店の方々や通りすがりの地域の方など様々な人とかわる機会があった。彼ら、彼女らとの交流や街並みの観察を通して、メンバー内で考え感じた内容を紹介したい。

気さくなご夫婦の人柄に惹かれて もう一度きっと行きたくなる



まず取り上げたいのが「ecoma coffee」というコーヒーの専門店でのエピソード。この物件は6人程の参加者がチームを組んで3日間で事業計画を作成し、最終日に不動産オーナーにプレゼンをする短期集中実践型スクール「リノベーションスクール」で事業化した案件。その参加メンバーの夫妻が店主をされていて、7/7に訪れた時には新参者の私たちをころよく迎えてくれた。

一回目の街歩きということで、まだ参加者5人とも緊張が抜けな中とりあえず何も考えずに店内に足を踏み入れた。入ると店内は広くはないが、午前中にもかかわらず数人の人が談笑しており地域の溜まり場のような印象だった。コーヒー専門店にもかかわらずコーヒーが苦手な抹茶ラテを頼む自分を情けなく思っていた矢先に、店主の方から何しに来たのか尋ねてくださって、それを機に雑談ベースでお話しを伺うことができた。

お話の中で、通りの向かい側の店舗との関係性の深さを感じることができた。お店のコーヒーのメニューの「キャットストリート」ブレンドは向かいの判子屋で飼われている猫にちなんで名づけられていることや、店舗のコンセプトを決める際に向かいの飲食店の「野菜とお酒のバル スバル」を意識して検討していたという話がとても印象的だった。近くの既存の店舗や類似のリノベーション物件とのつながり・仲の良さから生まれるコラボレーションはリノベーションという街への介入が拒まれることなく地域に受け入れられている証拠なのかもしれない。

リノベーションのパイオニア、 こだわり抜かれた内装デザイン

続いては、7/14に訪れた「cafe gallery CONVERSION」。この店舗は今まで話題に上がってきた「そうかりノベーションまちづくり構想」が始まるかなり前の2006年にオープンした物件で、開店当初はこの地域のリノベーション物件の先駆的な存在だったという。

歩きながらこの店舗を見つけた時には街歩きメンバーはこのこじんまりとつつも過去の蓄積を感じさせる、おしゃれな佇まいにテンションが上がっていた。その印象は店内に入っても変わることはなく、内部の内装やインテリアを見れば見るほど、その細部に至るまでのこだわりが感じられた。私たちが利用したのは2階にある「edaha」という手工芸品などを扱うライフスタイルショップ。2階に上がったメンバ



ーが下りてくるのを1階で待っている時に、不審な6人組の大学院生だったにもかかわらず、店主の方がころよく話しかけてくださり多くのお話を伺うことができた。

このお店はリノベーションスクールの案件とは異なり、店主がイチから手作りで試行錯誤しながら空間づくりをしていることもあって、2回の街歩きで回った他の店舗とは違った印象を受けた。この日のメンバーの興味も建築に寄っていたこともあり、コンバージョンするにあたって行った建築的操作や内装のデザインについての具体的な話も聞くことができ、店主のこだわり、そしてそれを求めて訪れる地域住民でにぎわう様子を納得がいった。市役所が近くにあるので、よく市役所の職員の方々にもカフェを利用してもらっているらしく、この日も仲良さそうに話している姿が印象的だった。店主のお話によると、市役所の方と良好な関係性があることもあって草加市が毎年発行しているリノベーションまちづくりの紹介マップの範囲にこのお店を含めてもらえているとのこと。また、他のリノベーション店舗の方々と仲が良く横のつながりがあるらしく、お客だけでなく店舗間の人同士の関係性や行政の方との心理的・物理的距離の近さも店舗が持続する上で重要な要素なのかもしれない。

おしゃれなデザインの看板、 居心地のよい静かな店内



最後に取り上げるのは、7/14の街歩きの終わりに訪れた、やさしいおやつとコーヒーを提供するカフェ「PAKAN」。アパートの一階の使われなくなったスペースをお店に改装した物件で、これもecoma coffeeと同様のリノベーションスクールによって生まれた店舗だ。ここは旧街道沿いから少し離れた位置にあることもあってか、周辺に住む地域の方々がふらっと立ち寄りたくなるようなお店の雰囲気を感じた。実際この日も店内には、日常的に利用してそうな若者やマダムたちがゆっくりくつろいでいる様子が見られた。

ここに来て一番印象的だったのは店の前にあった看板だ（写真右）。鉄筋で作られたアルファベットの文字を並べて、ヤカンの吊るされている様子は街歩きメンバー皆が驚いた。またお店の扉の上の看板はパイプのような廃材で作られていて、このデザインには見覚えがあった。というのも、この日の街歩きで訪れたSOSOPARKやcafe gallery CONVERSIONの看板も同じデザインだった。リノベーション物件の共通点を見つけたことに感動を覚えつつ、店内に足を踏み入れた。入店するやいなや、お店の方から「リノベーションの店舗に興味があるんですか？」と聞かれて驚いた。店の前でジロジロ観察しすぎて入る前から目的がバレてしまっていたことは恥ずかしかったが、それがきっかけで色々お話を伺うことができた。

お話の中で看板のデザインについての経緯を聞くことができた。街歩きで見てきた似たようなおしゃれな看板は草加駅前の雑貨屋が製作しているものらしい。この雑貨屋に製作をお願いしているのは、このカフェの店主の方が雑貨屋と以前から付き合いがあったらしく、3日間のリノベーションスクールに参加した時の横同士のつながりや、以前別のお店で働いていた時のつながりがあってその雑貨屋に依頼することになったらしい。これによって散らばった複数のリノベーション物件から感じられる統一感や旧街道周辺の一体感が生まれていると考えると、このような地域内の店舗同士の密な関係性も草加のまちづくりに良い効果をもたらしているのかもしれない。

参考文献

・『今様草加宿 HP』 <https://imayo-sokasyuku.com/html/history.html>
・『草加市 HP』 <https://www.city.soka.saitama.jp/cont/s1403/020/010/050/PAGE0000000000000043247.html>
・『SOKA RENOVATION MACHIDUKURI MAP 2023』（草加市自治文化部産業振興課 リノベーションまちづくり推進係）

草加駅東口 旧街道エリアをおさんぽする。

1 気さくな店員さんと楽しくおしゃべり ecoma coffee



キャットストリートブレンド
カフェラテ

スウィーティーな風味がミルクとマッチして
とても優しい味でした (M1 山田)



ヒアリングの様子

旧街道に面する自家焙煎珈琲店。
お店の奥には大きな焙煎機がある。
常連さんも多く、ヒアリング時も
道行く方に挨拶されている様子が
印象的でした！



猫のパッケージが可愛い
コーヒー豆をお土産に！

2 絶品日替わり定食 洋食屋 アターブル

肉が柔らかく
ソースとの組み合わせも最高 (M2 橋)



アターブルランチ
豚肩ロースのタリアータとレンズ豆の煮込み

平日・数量限定のアターブルランチが
特に大人気でした！ハンバーグも肉汁たっぷり
でおいしかったです。



手書きのメニューにも注目！



吹抜けが開放的な店内

3 歴史を感じる空間でほっと一息 蔵カフェ 中屋

湯気と共に
香ばしい香りが広がります、
ホッとする味わい。(M1 水野)



一番茶が厳選された、一番摘みほうじ茶



各所にこだわりが見られる空間



カウンターに並び手作り雑貨

重要文化財をリノベーションした店内
はとても落ち着いた雰囲気。カウン
ターにはスタッフの方の手作りのキャ
ンドルやお菓子が所狭しと並び、お土
産に買う学生も！

手作りフロランタン

4 お気に入りに出会えるかも…!! ライフスタイルストア edaha

素敵なアクセサリが沢山！
眺めるだけでも心躍りました (M1 小林)



うつわ、ガラス・木などの手工芸品が並び

下宿をリノベーションして5年前にオープン。
チャリティーイベント「みんなの市」出展作
家の手工芸品が主に取り扱われている。1階
はカフェになっている。



1階 cafe CONVERSION カフェの店主さんにヒアリング

5 北海道の味を草加で堪能 そうか食堂

ザンギは濃い目の味付けでしっかりと肉感。
カレーとのマリージュがガツンと来て Good (M1 音山)



新メニュー！！ザンギカレーライス



そうか食堂名物
ザンギ定食



高い天井の広い店内

ザンギが5個も入っており
ボリュームで大変満足！
(M2 佐橋)

北海道出身の店主さんが3年前にオープン。
昔は眼科だった建物がリノベーションされ、
天井等にその名残が見られる。

6 居心地の良さ抜群！ PAKAN

濃厚なチョコの味と
鼻に抜けるチャイティーの香りが
最高！ (M1 水野)



チャイ・チョコレートケーキ

おやつと珈琲を楽しめる隠れ家のようなカフェ。
インテリアや店先の看板にもこだわりが感じられる。



アイス豆乳ラテ



雰囲気のある店内

コーヒーのほろ苦さがしっかりと感じられる。
シロップを好きな量自由に注げる楽しさ。(M1 音山)

COLUMN

POSTSCRIPT

街歩きで一番印象に残ったことは意外にも人間味溢れる街だということだ。埼玉県とはいっても東京近郊なので、ご近所さんとは挨拶を交わすだけという無機質さがここにも見られると思っていた。実際はその真逆で、お店の人だけでなく通りすがりの人までも私たちに声を掛けてくれることがあった。研究を通じてこの地域での人とのつながりを私も築いていきたいと感じた。

7 月号担当
M2 佐橋慶祐



WEB MAGAZINE

ヌマラゴ整備



手賀沼プロジェクト

活動拠点内のヌマラゴに掲示板とギャラリーを設置しました。暑い中での作業でしたが、これから地域の方にも存分に活用してもらえたら嬉しいです。今後もアップデートを続けていきます！(B4 星)

続きはコチラ >>>
<https://ud.t.u-tokyo.ac.jp/a/blog/>



みなかみPJ 別府視察！



みなかみプロジェクト

総勢12名で、2泊3日の旅程で事例見学として別府・湯布院・黒川の3箇所の温泉を巡りました！温泉や美術館を一来街者として楽しみながら、インスピレーションを得ることができました。(M1 水野)

BOOK OF THE MONTH

ガールズ・アーバン・スタディーズ

Girls Urban Studies

Understanding, Connecting, Sensing Urban Life

ガールズ・アーバン・スタディーズ

「女子」たちの選ぶ・つなげる・生き抜く

大貫恵佳・木村絵里子
田中大介・塚田修一
中西泰子編著
法律文化社
2023

女性をする楽しさや、女性をさせられる苦しさ注目すると、現代の都市はいかなる視点が得られるか。乙女ロード、遠征、インスタ、外食、就活、マチャリ、夜職、フェミニサイドと様々な切り口で「都市にいる／女性である」とは何かを考える一冊。(M1 洲崎)